

文化庁日本語教育大会  
パネルディスカッション  
日本語教育人材の専門性を考える  
～求められるスキル・知識・能力とは？～

2016年 8月27日

## <年少者日本語教育>

**多様な言語文化背景をもつ子どもたちの  
支援・教育で求められる  
資質・能力とその養成  
—多文化教員養成モデルから—**

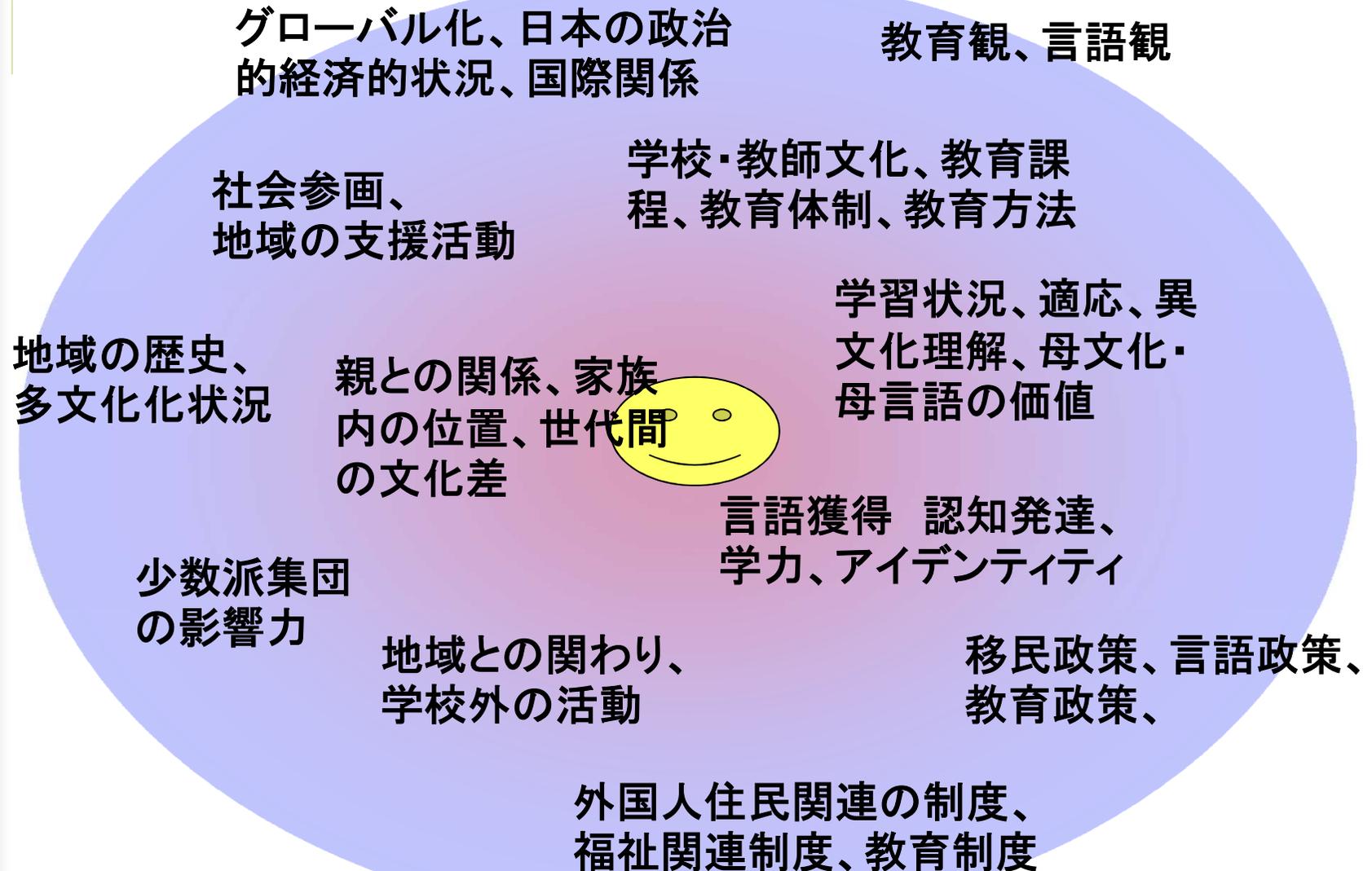
東京学芸大学

齋藤ひろみ

shiromi@u-gakugei.ac.jp

# 1 前提として

## 多様な言語文化背景をもつ子どもたちの教育課題



# ミクローマクロ(言語習得に焦点を当てた場合)

マクロ

言語政策・教育制度／言語能力観・文化観・  
人権意識／少数派言語・文化の社会的価値

地域の教育体制・外国人  
支援ネットワーク状況／

**私たちの課題**

ミクロとマクロを  
つないで解釈し  
解決すること

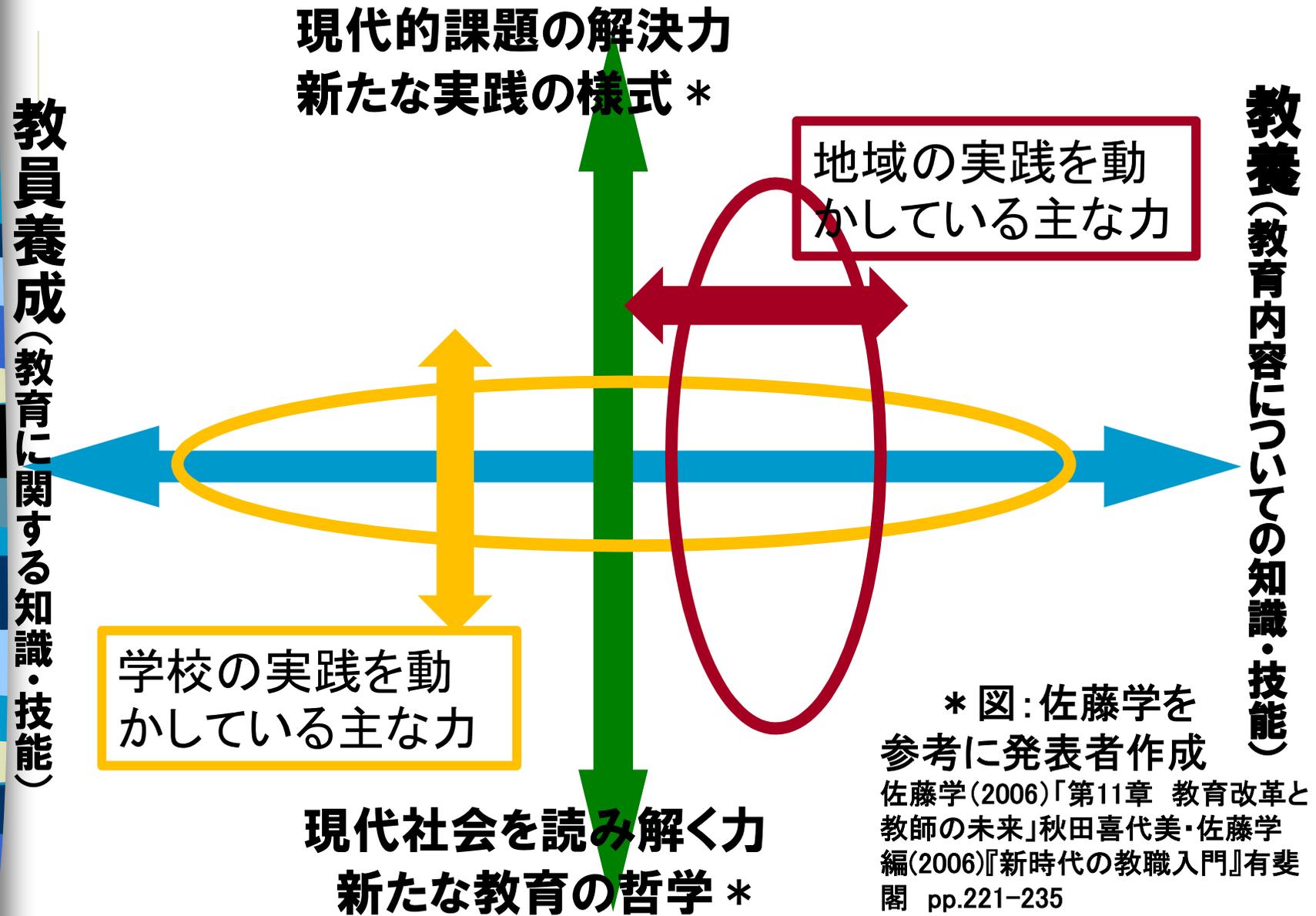
学校の多文化言語化状況／教育支援の体  
制／教育内容・方法／周囲の異文化理解

家庭の言語環境・言語との接触・運  
用状況(家庭・学校・コミュニティ)

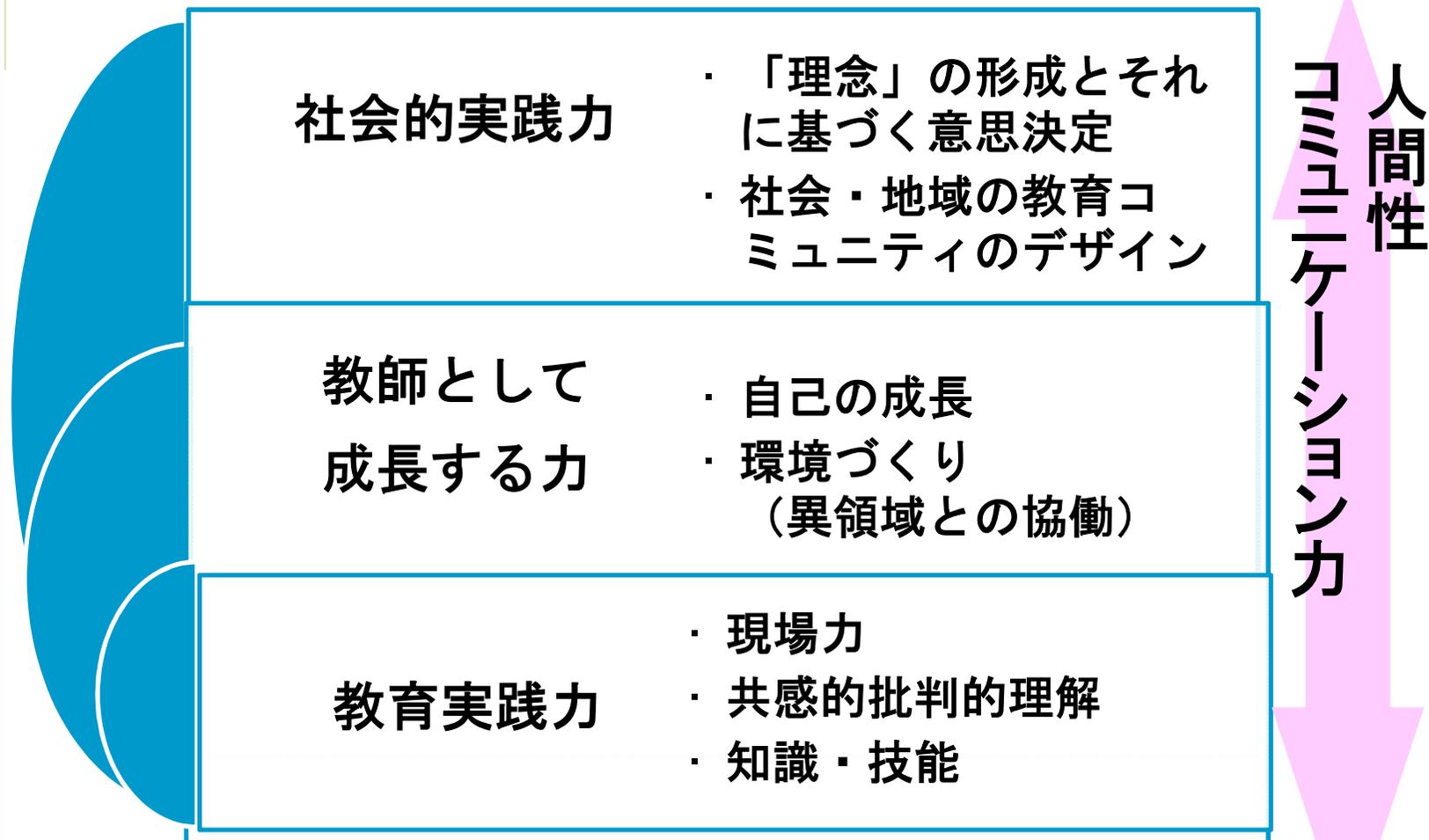
ミクロ

言語習得状況(母語・日本語)

## 2 現代的教育課題解決のための人材の養成



### 3 「多文化教員」の資質・能力



#### 多文化教員養成モデル 齋藤他(2011)

科研基盤(C)20520461『学校の多文化かで求められる教員の日本語教育の資質・能力とその育成に関する研究』報告書

## 4 多文化教員の資質・能力形成のプロセス

学習

内省素材

理念の形成・学校教育への位置づけ

社会的状況日本語・日本語教育に関する基礎知識・技能

ケーススタディ  
現場の実践報告

教育・指導方法の具体的な検討

コース設計・指導計画作成  
日本語指導の方法

現場の参観  
子どもとの接触・支援

教育・指導方法の見直しと教師としてのありようの再検討

現場での教育経験・実習  
教師の力量形成

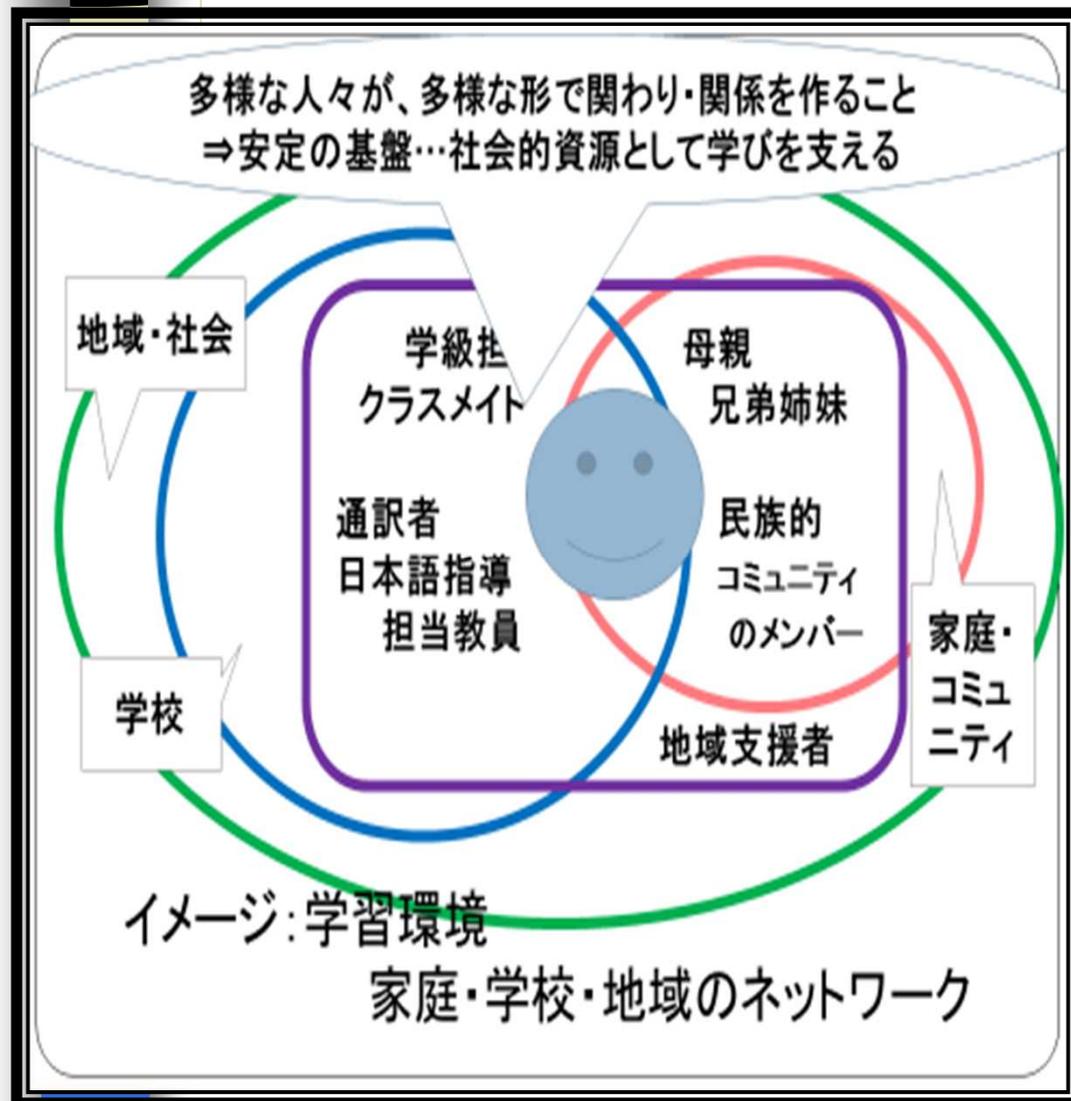
関連領域の知見  
異なる立場の見方

# ★ 子どもに関わる立場による 教育・支援のための資質・能力

<p style="text-align: center;"><b>学 校 教 員</b> (日本人の子どもへの教育との違い)</p>	<p style="text-align: center;"><b>地 域 支 援 者</b> (大人の支援との違い)</p>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの社会的・歴史的背景を理解し、学校・教員が担う役割を捉え直す力</li> <li>2 ・日本人対象に行ってきた教育を見直し、対象に合った内容・方法を検討する力               <ul style="list-style-type: none"> <li>・学外の組織や支援者と連携を図り、子どもの学習環境を整える力</li> </ul> </li> <li>3 ・子どもの背景にある言語・文化に関する知識               <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども一人一人の家庭の言語・文化環境を把握し、困難を見とる力</li> <li>・個に合った指導計画を立て・実施する力</li> <li>・日本語および言語獲得に関する知識と日本語の教え方</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 その子どもが「ことば」（日本語）を獲得することで得られる力（資本）を捉え直す力</li> <li>2 ・日本語教室を子どもの社会化のための場として設計する力               <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援教室外の子どもの生活・学習の場と関わっていく力</li> </ul> </li> <li>3 ・日本語以外の力（教科学習の力など）を把握する力               <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室外での学びと、教室での支援を関連付けて教える力</li> <li>・子どもの経験と既有知識を生かす学習を設計する力</li> <li>・子どもの発達の状態に合わせて日本語を教える力</li> </ul> </li> </ol>

## 5 地域⇔学校を結ぶために求められる力

…ことばの学びを育む環境をつくる



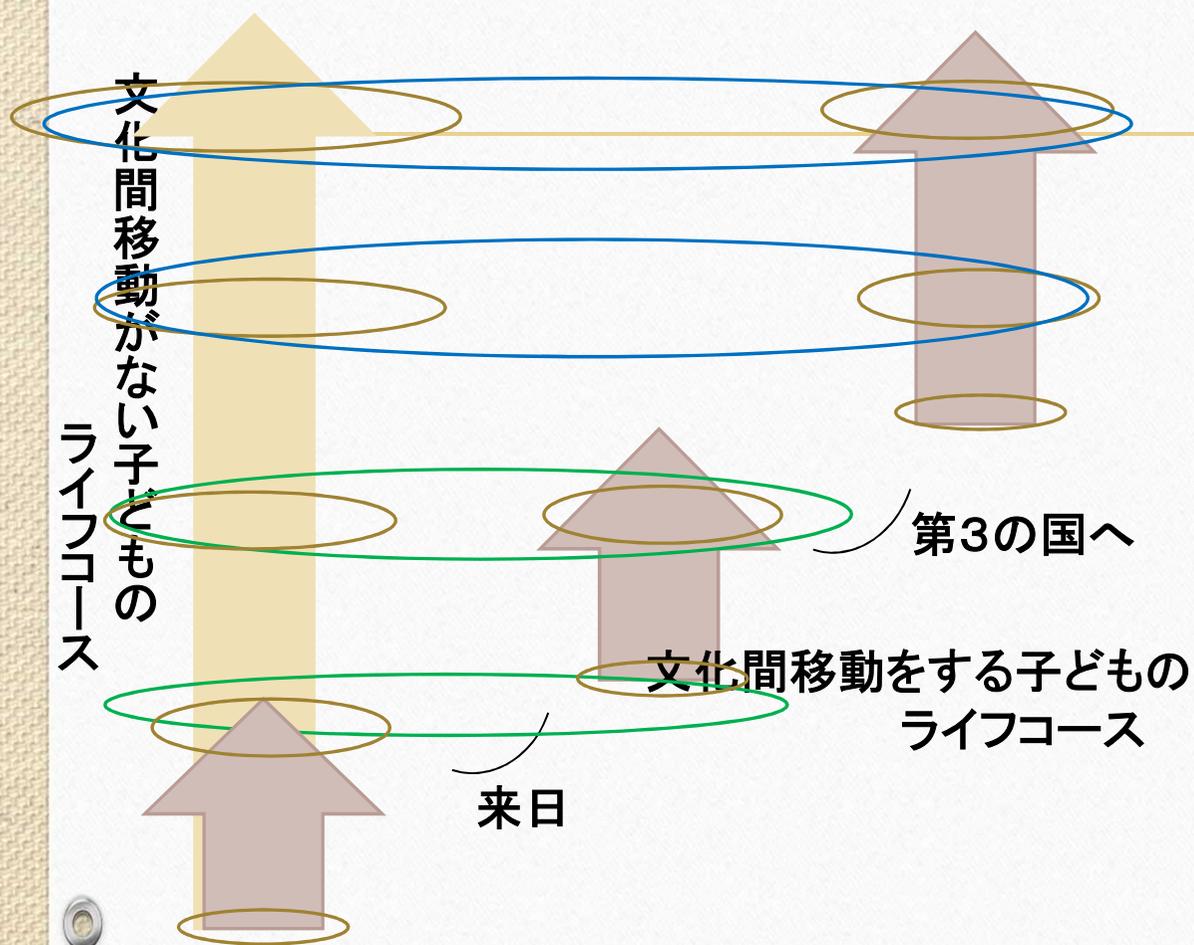
子どもたちが

- ・ 移動先の社会の文化や社会構造について知るために
- ・ 自身の存在する意味と人生の目的を探るために

社会との関係をつくり（自分の社会的役割の確認）、探究する過程を伴走し支援する環境を創る力

…教育コミュニティをデザインする力

# 6 学びの連続性を保障する教育・支援を デザインする力 —ライフコースという視点で—



移動による環境の変化は、子どもたちの学びの連続性を断ち切ってしまう可能性



子どもたちが経験的（学習を含む）に築いてきた**知のネットワーク**を**活性化**し、それを**ことばに結び**、**新たな学習活動への参加**を促す教育・支援をデザインする力が重要。